令和４年度 学校教育自己診断の結果と分析

【全体として】

☆今年度はほとんどのデータにおいて伸びを示しており、総合的には評価できる。

☆系列変更、生徒指導対応の変更、産社・総探の授業内容改編等に対して混乱し、広報でも今宮高校のストロングポイントを魅力をとして伝えきれなかった状況となっていた。そんな流れの中で、ストロングポイントを共有し、さらにウィークポイントを改善に努め、目標に向かって進むための土台ができつつあると感じている。そのことが今回のデータに反映していると考えている。

☆今後は各施策においてさらにブラッシュアップを図り、R5 年度より掲げるスクールミッションを果たすための企画運営に注力していきたい。特に学習の充実をもたらし、その結果希望進路実現を可能にしていくことを早期に達成することをめざす。

【総合学科について】

① データ

＊（１）［生徒全体比較（R1～R4)、生徒３学年比較、25 期生 3 年間比較］に着目

項目　①、②（元々高い肯定率であるがさらに微増、特に②では系列変更前まで回復）

項目　③、④（年々、学年を重ねるごとに上昇）

＊（２）［生徒全体比較（R1～R4)、1 年生生徒経年変化比較、2 年生生徒経年変化比較］に着目

項目　⑫（今までも発表する機会はあったので元々高い。今年度の場合は 1 年生、2 年生において今までよりも高くなっている）

＊（３）［生徒３学年比較、1 年生生徒経年変化比較、2 年生生徒経年変化比較］に着目

項目　⑭（３年生において肯定が強い傾向は元々ある。今年度の場合は 1 年生では高いが、2 年生では低い）

項目　⑯、⑰、⑱（3 年生では満足度はあがっているが、2 年生でのデータが低い）

＊（４）［保護者全体比較（R1～R4)、保護者各学年比較］に着目

項目　①、②、③、④（昨年度より低下はしていないが、改編前のデータには戻っていない）

② 分析

＊R2 より系列変更が行われたため総合学科らしさを受けとめにくい状況となった。選択科目には大きな変更を行ってわけではないが、希望進路実現に向けて選択できる幅が絞りように指導したことが影響していると考えられる。そのようななかで、科目選択という外枠ではなく、内容で総合学科の特色を活かした教育を構築するように組み直した。総合の授業の内容を改変し、「産社」での「キャリア教育」、「SDGs 課題解決」をテーマとした学びにより、総合学科としての目標を明確にして取り組んでいる。今年度はその取り組みが寄与していると受け止めている。今後も「産社」「総探」の体系的プログラムをﾌﾞﾗｯｼｭｱｯﾌﾟしていき、さらに成果を上げることができると考えている。

＊項目④での上昇は、課題発見をして、自分ごととしてとらえながら課題解決に至るように取り組んでいる成果だと考えられる。将来において社会で活躍する礎となってくれるとうれしい。

＊総合の授業では「キャリア教育」、「SDGｓ課題解決」の大きく 2 つをテーマに構成している。1 年生では「キャリア教育」をしっかりと取り組むことで成果を受け止めてくれているが、2 年生では「キャリア教育」に対しては評価が低い。一方「SDGs 解決」の取り組みは 1 年生、2 年生ともにプログラムが進められていることがわかる。この取り組み内容のバランスが影響していると考えられる。「キャリア教育」についてもバランスよく 3 年間取り組むように修正することが必要と受け止めている。

＊保護者には現在の取り組みがまだ伝わっていないと受け止めている。保護者にも伝わるようなプログラム構成を構築したい。

【進路について】
① データ
＊（１）［生徒全体比較（R1～R4）と生徒３学年比較］に着目
項目　⑯、⑰、⑱、⑳、㉙（微増）
項目　⑲（1ポイント減）
＊（２）［保護者全体比較（R1～R4)］に着目
項目　⑨、⑩（増）
項目　⑪（微増）

②分析
＊25期3年生には進路指導が伝わっていると受け止められる。また1年生でもキャリア教育のプログラムが多いので肯定感は高い。
＊保護者への進路指導への理解は昨年度よりは伸びているが、肯定率はまだ低い。生徒と同等の肯定率を得られることを目標にしなければならない。
＊生徒も保護者も情報提供、情報共有は重要であると考える。今年も ICT を活用して工夫を試みたが、さらに多くの保護者が関われるような工夫を取り入れたい。

【学習・授業について】
① データ
＊（１）［生徒全体比較（R1～R4）と生徒３学年比較］に着目
項目　⑥（大幅増)、⑩（増）
項目　⑧（増)、⑨（減）
項目　㉗、㉘、㉙、㉚　（どれも増）
＊（２）［3年生生徒経年変化比較と2年生生徒経年変化比較と1年生生徒経年変化比較］に着目
項目　⑥、⑩（1，3年生で大幅増)、⑩（増）

② 分析
＊学校の授業が、希望進路実現において寄与している肯定感は増加している。とともに教員が授業を工夫しながら構築していることが伝わっていることも受け取ることができる。特に 1、3 年生において肯定的に受け止められている。
＊家庭学習時間は伸びてはいるが、絶対的にまだまだ不足している実態があることは否めない。自主的・自発的な学びの促進を図り、家庭学習時間が伸びるようはたらきかけていくことが重要であると考える。講習等の活用については例年通りであり、実際に大きな変更をしていいないためである。
＊科目選択におけるガイダンス充実度は横ばいである。どうしても第1希望から外れるケースもあることは教員数等からやむを得ないこともあるが、全員の希望が叶うようカリキュラムの工夫を図りたい。

【生徒指導について】
① データ
＊（１）［生徒全体比較（R1～R4）と生徒３学年比較］に着目
項目　㉛（昨年度より大幅増）
項目　㉜（増）

② 分析
＊「自主規制」尊重を重視した指導体制を始めて3年目であった。今年度は全学年で生徒指導への理解が進んでいる。また生徒がルールへの尊重に努めている割合が 9 割を超えた。生徒の意見も尊重しながら指導を進めていること、家庭連絡を丁寧に行う等の取り組みの成果だと考える。

【教育相談・人権教育について】
①　データ
＊（１）［生徒全体比較（R1～R4）と生徒３学年比較］に着目
　　項目　㉝（大幅増）、㉞（増）
＊（２）［生徒全体比較（R1～R4）と生徒３学年比較］に着目
　　項目　㉟（増）

②　分析
＊相談でできる先生の存在が増えていることは評価したい。「寄り添い」をキーワードに教員にはカウンセリングマインドを追求してきた成果だと考えている。さらにどの先生であっても相談できると言われるよう意識向上に努めたい。
＊人権教育は 3 年間のプログラムを見直し、多様性を受け入れる感性を育成するよう取り組んでいる。生徒のデータは確実に伸びてはいるが、さらに伸ばさなければならない。
＊障がいについての学びの機会は伸びているものの、共生推進教室をもつ学校としてはまだ満足できない状況である。昨年度は共生推進教室生が所属している学年での理解が高いという状況であったが、今年度は組織的対応を進めたことにより全学年で理解が進んでいる。まだプログラムの充実を図ることでインクルーシブ教育を進めることができると考えている。

【国際交流】
①　データ
＊（１）［生徒全体比較（R1～R4)］に着目
　　項目　㊴（増）
②　分析
＊感染症の影響はあるが、その中で ICT を利用して交流、国内での交流を通じたプログラムを進めた。その分、国際交流の肯定的な見方が増加したと考える。留学を実施していた年度並みの肯定感が得られてはいるのであるが、なかなか生徒に幅広くに国際交流を体験してもらうプログラムまでには至っていない。
＊今年度は１，２年生には英検を全員受験することとなっており、国際交流が実施された際に、コミュニケーション力を発揮できるような準備は進めている。

【防災】
①　データ
＊（１）［生徒全体比較（R1～R4)］に着目
　　項目　㊶（増）
②　分析
＊昨年度は避難訓練が実施できていないので、大きく落ち込んだが、今年は一昨年度を超えたので、取り組み内容は成果があったと考える。生徒視点での意見収集を行い、改善を進めた成果ととらえている。まだまだ意識を高めていきたい。
＊地域との連携は地域からも求められており、特に第 2 回の防災訓練において何か工夫を図りたい。

【ICT】
①　データ
＊（１）［生徒全体比較（R1～R4）と３年間比較（R３・R２・R１)］に着目
　　項目　㊹（増）
②　分析
＊88%が肯定的であることは評価できる。
＊活用の方法が広がっており、さらに研究を進めることで学習効果を向上させる活用が期待できる。
＊働き方改革に効果をもたらすところまで整備は進んでいる。業務の効率化を図っていきたい。